

## 令和4年度中予地方局予算事業成果表

### 1 基本事項

- (1) 事業名 七折小梅産地再興支援事業費  
(2) 事業期間 令和3年度～令和5年度  
(3) 所管 農林水産振興部 農業振興課 地域農業育成室 伊予農業指導班  
(4) 予算額 1,785 千円

### 2 事業目的

県の愛あるブランド産品に認定されている七折小梅は、平成26年度頃から安定した収量の確保ができず、生産量が低迷していることから、各種栽培技術の検証を行うとともに、優良系統の選抜を行い、産地の再生と地域の活性化に向け取り組む。

### 3 主な取組（何をしたか）

#### (1) 着果不良の原因解明と技術実証

- 生産安定のための栽培技術検証  
液肥を活用した花芽の充実による着果安定効果の検証を行った。
- 高品質安定生産と早期成園化技術の確立  
樹冠の拡大による初期収量確保を目的とした実証ほを設置した。
- 産地の高齢化・担い手の集約化に対応した省力化技術の実証  
省力化を踏まえた樹形改善や省力化機材の活用を実演した。

#### (2) 優良系統の育成と更新

- 収量性や品質調査を実施し、優良系統母樹を選抜した。(5系統)
- 特に優れた系統から苗木を生産し、800本を改植更新に活用した。

#### (3) 七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議の開催

七折小梅の生産安定技術の確立と普及を目指し、ななおれ梅組合、砥部町、JAえひめ中央、県(農産園芸課、果樹研究センター、中予地方局農業振興課)で構成するプロジェクトチーム会議を開催(1回)し、関係機関と連携して、効果的な生産安定対策を推進した。

### 4 成果(何がどう変わったか)

- 着果不良は、高温による不完全化の発生が一因であることを確認した。
- 特に優れた系統として竹内系統を選抜。気象的な要因にも問題がなく、安定した品質と収量性を確認した。  
また、優良系統苗木により、約1haの梅園を改植更新した(図1)。
- 省力化対策では、母樹園を設置し、樹形改善による収穫作業の省力化を進めるためのモデル樹を設置したことにより、農家の省力化技術への意識が高まった。
- 収穫時の労働力不足に対応するため、IT利用による就労者確保システムの利用を紹介し、雇用の確保につなげた。



図1 優良系統の結実状況